

令和8年 萩市議会 6月定例会

一般質問通告者

質問順序	議席番号	通 告 者	会派・政党	摘 要
1	14	石 飛 孝 道	立志会	6月23日午前
2	5	福 場 正		
3	13	森 田 宗 和	政風会	午後
4	4	水 津 真 澄	萌和会・参政党	
5	12	村 谷 幸 治	蒼成会	
6	3	下 田 洋 香	萌和会	
7	1	榎 谷 紘 司	蒼成会	6月24日午前
8	9	岡 崎 隆 志	立志会	
9	17	西 中 忍	立志会	午後
10	8	浅 井 朗 太	立志会	
11	10	小 林 富	蒼成会	
12	7	山 口 泉	蒼成会	6月25日午前
13	15	美 原 喜 大	政風会	
14	11	松 浦 誠	公明党	午後
15	6	安 井 順 子	公明党	
16	16	森 田 哲 弘	立志会	

質問順位	1	質問者	石飛孝道議員
質問項目		質問事項及び要旨	
1. 市民の暮らしを守る、2次救急医療体制や地域医療を今後、いかに維持していくのか市長のお考えを尋ねます	1. 萩医療圏の医療体制を守るために、萩市において2次救急医療体制を再構築するしかありません。救急医療が守れなければ、市民の安全が確保できず、住み慣れた地域で安心・安全に暮らすことが出来ません。市民の暮らしの安全を守るための2次救急医療体制についてお尋ねします。また、これから高齢化が進む中で、地域医療をどのように進められるのかお尋ねします。		
2. 玉江漁港海岸保全事業（西ノ浜）浸食の主な要因は	1. 浸食の原因を特定するためには専門的な調査や解析が必要です。海岸管理の専門家や地質学者と連携し対策を検討することが重要です。市の見解を尋ねます。		
3. 後小畑地区の国道191号線と市道が交わる三差路に信号機の設置は考えられないか	1. 近年、交通量が増える中で、朝の通勤通学の時間帯や夕方への帰りの時間帯には、この三差路は非常に渋滞している状況です。特に市道の奥の方には萩総合支援学校や至誠館大学の通勤通学路になっていまして、朝夕の時間帯には、市道から国道に侵入することが難しい状況です。また、この道路は越ヶ浜小中学校の通学路にもなっていて、先月にはこの三差路で車の接触事故があったと聞いています。子供達の安全確保が求められるところです。市の見解を尋ねます。		
4. 元越ヶ浜市営駐車場の公衆トイレを和式から洋式に一つだけでも変えられないでしょうか	1. これから、多くの方が駐車場をご利用されると思います。また、椿祭りの開催時にはシャトルバスの発着場となり、公衆トイレを使用される方も増えます。おもてなしの心としまして、トイレの改修も必要と思いますが、市の見解を尋ねます。		

質問順位	2	質問者	福場 正 議員
質問項目		質問事項及び要旨	
1. 萩保健医療圏の医療提供体制について		1. 医師会が警鐘を鳴らす「救急搬送の現状」に対する市の危機感について 2. 山口県知事の会見発言を踏まえ、市は今後どのように取り組んでいかれるのか	

質問順位	3	質問者	森田宗和議員
質問項目	質問事項及び要旨		
1. 萩市の医療について	<p>1. 萩市外への救急搬送は以前、関議員が質問した時は、年間50件ぐらいだったと記憶しています。令和7年は、100件を超えていると聞いていますが実際の件数をお聞きします。</p> <p>2. 市外にこれだけ多くの救急搬送がある場合、別線バイパスが必要であると思います。私は、医療だけではなく、道路も命にかかわる問題と思いますが、市長は、どう考えていますか。</p> <p>3. 選挙中に、宇部の大学病院に行くのにタクシーを利用している。年金生活で負担が重いとの陳情がありました。以前、関議員も質問されましたが、宇部空港に行っている乗り合いタクシーの利用は考えられないでしょうか。お聞きします。</p> <p>4. 中核病院が一旦破綻となりました。医誠会のプレスリリースや、一部議員からは、前市長の時に合意寸前だったとの主張がありましたが、事実ですか。前市長時代に相手方の病院査定も行っていない。なのに、「合意寸前だった」との表現は、行き過ぎと思いますが、真相をお聞きします。</p> <p>5. このプレスリリースによれば、ゼロベース検討で、中核病院の形成が難しくなったとありますが、田中市長は、この公約を掲げ市長として信任を得たので、このゼロベース検討は、民主主義の手続きとしては必要なプロセスだったと思いますが、市長はどう考えていますか。また、市長は、ゼロベース検討を8か月で、中核病院形成に舵を切っており、長時間立ち止まっていません。ゼロベース検討が、中核病院形成には、支障を及ぼしてはいないと私は考えますが、市長の見解をお聞きします。</p> <p>6. このプレスリリースによれば、『経営統合による中核病院形成は、健全で、持続可能な病院経営の見通しがあつてこそ成立するものと考えております。厚生労働省が「地域医療構想」に基づき、医療機関の再編・機能分化を進める中においても、経営主体の健全性・持続性・透明性の確保は不可欠な前提条件と記載されています。当萩医療圏の地域医療構想で承認された2病院統合計画も、これらが担保されてこそ実現できるものと認識しております』と記載されています。いずれにしても、統合問題は、都志見病院</p>		

質問項目	質問事項及び要旨
	<p>と市民病院の体力強化が必要です。相手方もそうですが、市民病院の健全性・持続性の確保、また、病院経営の見通しなど、今後の市民病院の課題をお聞きします。また、今後も、二次救急医療体制の維持に向けて、連携を密にとってほしいと考えていますが、どのような体制をとっていかれるかお聞きします。</p> <p>7. 以前、萩市民病院は、病院改革として地方独立行政法人を目指されましたが、市民病院の体力強化、診療科目の充実、医師の確保、給料UP等、柔軟な発想、対応ができる地方独立行政法人に移行した方が良いと私は思いますが、市長の見解をお聞きします。</p>
<p>2. 消滅可能性都市「萩市」からの脱却に向けた人口減少対策について</p>	<p>1. 25年国勢調査によれば、20年と比較すると、萩市は、10.8%減少し、初めて4万人を切りました。しかし、長門市(28,832人)11.3%、美祢市(20,145人)13.3%と近隣他市より減少率が低い結果が出ました。自然減少は低いものの、社会減少が貢献しています。給食費の無料化、子育て支援等、移住者、定住者対策などの効果が見られると思いますが、市長の見解をお聞きします。</p> <p>2. 昨年度、総務委員会で、消滅可能性都市からの脱却に向けた人口減少対策について議論しました。小林委員長の発案、ご努力で、至誠館大学の学生にアンケート調査し、結果を踏まえて意見交換も実施しました。</p> <p>学生のアンケート調査では、萩出身者19.4%山口県出身者11.3%合計30.7%の中で、市内就職検討が4.8%、条件検討が14.5%、合計19.3%の方がおられました。また、「市内事業者の説明会や、訪問する機会があれば参加しますか。」の質問に、32.2%の方が参加したいと答えておりました。そして、まとめの中で、「市内企業訪問バスツアーで直接企業を見学してもらうのが効果的だ」と意見がありました。至誠館大学で実施されていると聞きましたが、その実績、効果をお聞きします。</p> <p>3. 萩市の定住政策として、高校生にも市内事業者訪問バスツアーを実施しようではありませんか。市長の見解をお聞きします。</p> <p>4. 私たち総務委員会は、萩ビズに出向き会議をしました。その際に、萩の会社を、保護者、高校の就職担当の先生も</p>

質問項目	質問事項及び要旨
	<p>よくご存じではないのではとの意見も出されました。このバスツアーに保護者、先生もご招待したら理解も深まるのではと思いますが、市長の見解をお聞きします。</p> <p>5. アンケート調査に、「萩市による就職支援で有効と思うものを教えてください」の回答に、50%の学生が、奨学金返済への一部補助の増額と答えておられます。増額は考えられませんか。市長の見解をお聞きします。</p>
<p>3. 観光地「萩」の発展と宿泊税の導入について</p>	<p>1. 私は、宿泊税の導入を、選挙公約に掲げました。宿泊税は、文化財保護、世界遺産の歴史的価値の保護、発信等、将来に渡って持続可能な観光地「萩」として発展していくことが目標です。また、人口の減少が進み、税収が減っている。市民の負担を増やすことなく、自主財源を確保できる宿泊税を導入しませんか。市長の見解をお聞きします。</p> <p>2. 例えば、宿泊者お一人様500円いただければ、年間1億5千万円の安定した財源として活用できます。この財源を利用して、文化財の修繕にも使えます。また、コロナ禍で非常に評判が良かった萩にゃんクーポンの活用により、閑散期の宿泊者の増加、お土産屋（萩焼）さん、飲食業の景気回復、及び、観光振興に大いに役立つと思います。市長の見解をお聞きします。</p> <p>3. 萩市の基幹産業である観光業の景気拡大が、一次産業、建設業、小売業、サービス業の景気を盛り上げると私は思っております。萩市の経済を盛り上げ、多くの業種が潤うようにしていこうではありませんか。宿泊税の導入は、3年～5年かかると聞いております。市内の事業者を守り、地域経済活性化を図ることこそ市政の役割ではありませんか。市長の見解をお聞きします。</p>

質問順位	4	質問者	水津真澄議員
質問項目		質問事項及び要旨	
1. 萩産オーガニック食材の給食活用による地域農業支援と、持続可能な食の循環づくりについて		<p>1. 学校給食へ萩産の米や野菜、特にオーガニック食材を優先的に導入する仕組みを構築し、地元の農業支援、地域内経済循環の創出、子育て世帯の移住促進へとつなげる総合的な食農政策について、市の見解と今後の取り組みを問う。</p> <p>(1) 萩産食材の給食利用率低下の要因と改善策について</p> <p>(2) 食料自給率向上と農家の継続支援について</p> <p>(3) 補助金を活用した地域内循環の仕組みについて</p> <p>(4) 給食単価の見直しとオーガニック食材導入の可能性について</p> <p>(5) オーガニック給食の健康効果と移住促進への可能性について</p>	

質問順位	5	質問者	村谷幸治 議員
質問項目	質問事項及び要旨		
1. 教員の働き方改革について	1. 昨年4月の始業日時時点で、全国の公立小中高校と、特別支援学校で教員の不足数が4,317人であったことが文科省の調査で分かりました。山口県では、小学校で14名、中学校で8名の不足が発表されましたが、萩市の状況はどうでしょうか。また、2024年度では全国の公立小学校教諭の22%、中学校教諭の40%が国が上限とする「月45時間」を超える時間外勤務をしていたことが発表されましたが、萩市の実態はいかがでしょうか。		
2. 萩市の人口減少について	1. 2025年の国勢調査の速報値が発表されました。県内13市のうち人口減少率が最も高かったのは美祢市の13.3%、次いで長門市の11.3%、これに続いたのが萩市で10.8%であり、奇しくも北浦3市と呼ばれる美祢市、長門市、萩市の3市がワースト3でありました。世帯数の減少においても、この3市がワースト3を独占する形となっております。萩市におきましては、人口が4万人を割り、世帯数も2万世帯を割っており、特に旧郡部での減少率が增大しております。今後、こういった施策によって若者の流出を防ぐ若しくは、市外から若者を呼び込む手立てを講じていくのかお聞きします。		
3. ごみ袋の供給について	1. 中東情勢を受けて、全国各地で指定ごみ袋が品切れ、品薄になっていると聞いています。萩市ではどうですか。		

質問順位	6	質問者	下田洋香議員
質問項目	質問事項及び要旨		
1. 不登校児童生徒への多面的な支援と、保護者に寄り添う伴走型ケアについて	<p>1. 文部科学省の不登校対策「COCOLOプラン」では、ゴールを「無理な登校」ではなく「社会的自立」とし、学校復帰のみを前提としない方針が示されています。私自身、親として子どもの不登校を経験してきた当事者としての視点を交え、本市の現状と課題について以下の4点について当局の見解を問います。</p> <p>(1) 過去の議会質疑以降における、本市の不登校支援の具体的な進捗状況と現状の認識について伺います。</p> <p>(2) 孤立しがちな保護者の深い葛藤に寄り添う、日常的な伴走支援について伺います。不登校の親が直面する「何が正解か分からず他家庭と比べてしまい孤独になる」などといった深い葛藤に対し、既存の保護者カフェなどのその場限りの支援にとどまらず、家庭での孤立に寄り添い、もう一步踏み込んで継続的に伴走してくれるような、きめ細やかなサポート体制(SNS相談の活用等を含む)を構築していく考えについて、市の方針を伺います。</p> <p>(3) 令和6年度より開設されている「萩輝きスクール」3分室(須佐・田万川・むつみ)のこれまでの運営状況と、見えてきた現場の課題について伺います。</p> <p>(4) 学校と地域の居場所を繋ぐ柔軟な連携体制と、地域資産の有効活用について伺います。現在、主要な学校等で臨機応変に行われている校内での別室対応などの取り組みをさらに一歩進め、児童生徒や保護者、教員の負担を軽減するため、学校とフリースクール等の地域の居場所がより柔軟に、自由に行き来できるような連携体制を構築する考えはないか伺います。また、広域地域における教育支援格差を解消するため、「休校中の旧弥富小学校を不登校支援の拠点として活用したい」という地域住民の皆様からの切実な要望を真摯に受け止め、既存の休校舎を有効活用して、北東部地域の児童生徒や保護者のアクセス負担を軽減する居場所づくりを進める考えについて、市の見解を問います。</p>		

質問項目	質問事項及び要旨
<p>2.「萩まちじゅう博物館を基盤とした文化観光推進地域計画」を契機とした、萩市全域の文化観光資源の活用と地域回遊の促進について</p>	<p>1. 国の文化庁に採択された本計画は、2029年度までに総事業費約2億7,000万円を投じ、拠点施設来訪者12.5万人、2泊以上の連泊滞在者30%などを目指す大規模な事業です。このまたとない好機を決して外すことなく、確実に大成功へと導くため、以下について市の見解を問います。</p> <p>(1) 現在の進捗状況と、目標達成に向けた手応えについて伺います。</p> <p>(2) 中心部から周辺文化財への回遊性の向上と、現場の課題解決について伺います。連泊滞在者を増やすためには、中心部から周辺エリアへの回遊を促す仕組みが不可欠です。本計画には案内看板(サイン)の整備事業等も盛り込まれていますが、私の地元である川島地区の藍場川周辺を例に見ても、「案内看板の分かりにくさ」「駐車場問題」「広報不足」といった現場の課題が山積しています。こうした具体的な課題に対し、計画の事業をどのように結びつけ、対策を講じていくのか、市の認識と方針を問います。</p> <p>(3) 計画の対象エリア外となっている中山間地域における今後の文化観光の展開について伺います。今回計画の対象外となっている周辺部や広域地域の豊かな文化観光資源をどのように位置づけ、今後市全域の取り組みとして連動させていくのか、当局の方針を問います。</p>

質問順位	7	質問者	榎谷 紘司 議員
質問項目	質問事項及び要旨		
1. 萩市景観計画について	<p>1. 地域の活性化と人口減少対策の観点から、景観条例の運用について質問いたします。</p> <p>萩市では、良好な景観を保全し、魅力あるまちづくりを進めるため景観条例が定められています。平成31年に改正が行われ今日まで運用を行われてきました。そのなかで市民や事業者からは、建築物の改修や看板設置などにおいて手続きや規制が負担となり、空き家活用や新規出店の妨げになっているとの声も聞かれます。</p> <p>特に人口減少や空き店舗の増加が進む中、景観保全の重要性は理解しながらも、地域経済の活性化や民間投資を促進する視点も必要ではないでしょうか。</p> <p>そこでお尋ねします。</p> <p>(1) 市民や事業者から景観条例に関する相談や要望はどのような内容が寄せられているのか。その中で設計変更や事業を断念した事例はどの程度あるのか。</p> <p>(2) 空き家活用や店舗誘致、企業進出を促進する観点から、景観条例の運用基準を柔軟に見直す考えはないか。</p> <p>(3) 萩市では景観形成重点地区と一般地区で基準を分けるなど、メリハリのある運用を行っているが、景観保全と地域活性化の両立に向け、今後どのような方向性で条例運用を進める考えか、市長の見解を伺います。</p>		
2. 駐車場の確保及び管理について	<p>1. 近年、自家用車で萩市に訪れる方が増加傾向です。市内中心部や観光地周辺では、駐車場不足が発生しているとの声を市民や来訪者から聞いております。</p> <p>一方で、市営駐車場については、設置から長期間が経過している施設もあり、利用実態や管理方法について検証が必要ではないかと考えます。</p> <p>そこでお尋ねします。</p> <p>(1) 現在の市営駐車場の利用状況について、市はどのように把握しているのか。</p> <p>(2) 観光地周辺や市街地において、駐車場不足が生じていると認識しているのか。また、その対策を検討しているのか。イベントのホームページでも複数の観光駐車場を案内しているが、繁忙期の受入体制について市の考えを</p>		

質問項目	質問事項及び要旨
	<p>伺います。</p> <p>(3) 市有地や遊休地を活用した新たな駐車場整備の可能性について、どのように考えているのか。</p> <p>(4) 駐車場管理の効率化として、利用状況のデジタル管理やキャッシュレス決済、EV充電設備の整備などを進める考えはあるのか。</p> <p>(5) 今後の観光振興及び中心市街地活性化の観点から、駐車場政策をどのように位置付けているのか、市長の見解を伺います。</p>
<p>3. 子どもの体験格差の是正について</p>	<p>1. 近年、家庭の経済状況や居住地域の違いにより、子どもたちが様々な体験活動に参加する機会に差が生じる「体験格差」が社会問題となっています。</p> <p>自然体験、文化芸術体験、スポーツ活動、職業体験などは、子どもの成長や学びに大きな影響を与えます。しかし、参加費や送迎の問題などにより、十分な機会を得られない子どもも少なくありません。</p> <p>本市においても、すべての子どもたちが等しく多様な体験を得られる環境づくりが必要と考え、以下質問します。</p> <p>(1) 本市は子どもの体験格差についてどのように認識しているのか。</p> <p>経済的理由や地域的要因により体験機会に差が生じている実態を把握しているか。</p> <p>(2) 参加費が負担となる家庭への支援制度はあるか。</p> <p>今後、本市独自の子ども体験パスポート制度を創設し、体験活動を無料または低額で利用できる仕組みの導入を検討できないか。</p> <p>(3) 萩市は豊かな自然や歴史文化を有している。これらを活用した体験活動を多くの子どもたちが経験できる環境こそ、他市にはない特色ある子育て支援になると考えるが、市長の見解を伺います。</p>

質問順位	8	質問者	岡崎隆志議員
質問項目	質問事項及び要旨		
1. 周辺地域の衰退を食い止めるためのビジョンを問う	1. 周辺地域の維持・存続のために何をするのか 2. 農業政策に関するビジョンは 3. 小中学校のあり方検討事業はどう進めるのか 4. 部活動の地域移行・地域展開における地域格差の是正をどうするか		

質問順位	9	質問者	西 中 忍 議 員
質問項目		質問事項及び要旨	
1. 近年、急速に進んでいる出生数減少の原因をどう分析し、どのような対策が必要と考えているのか	<p>1. 萩市は、人口減少・少子高齢化という大変に難しい問題に直面しています。</p> <p>特に出生数の減少は、近年スピードが加速しているように感じています。</p> <p>そこで、報道でもありましたが、改めて、令和7年の出生数は何人だったのかお尋ねします。</p> <p>また、現在行われている各種無償化事業や給付事業と、現状の関係をどのように分析し、今後どのような対策が必要と考えているか、併せてお尋ねします。</p>		
2. 新たな移動手段の確保に取り組んでみないか	<p>1. 国が法律改正を行い移動手段確保策として、他業種の連携による対応という方向性を示しました。</p> <p>そこで、市として新たな国の方向性に沿った移動手段確保策に取り組む考えがないかお尋ねします。</p>		
3. 萩市の地域医療はどうなるのか	<p>1. 萩市では、救急医療を含めた地域医療を守るため2病院の統合による中核病院形成を進めてきました。</p> <p>しかし、田中市長のゼロベース検討をきっかけに、全く進まなくなり、その結果、中核病院形成がいったん白紙になるという大変に厳しい状況になってしまいました。</p> <p>そこで、ゼロベースを訴えた田中市長は、この結果について、ご自身の責任を含めて、どのように分析しているか、お尋ねします。</p> <p>また、今回の結果を踏まえ、萩市の救急医療を含めた地域医療をどのような手法で守っていこうと考えているか、市長の率直な考えを併せてお尋ねします。</p> <p>さらに、中核病院に関する調査特別委員会の終結時に、関議員、瀧口議員、長岡議員、美原議員、森田宗和議員などが、少数意見として「現在の二次救急医療の状況を改善するには、中核病院の設置のみならず、一次救急医療も含めた萩市全体の救急医療体制の再構築が必要」という主張をしたことに対し、田中市長はどのような見解を持っているかお尋ねします。</p>		

質問順位	10	質問者	浅井朗太議員
質問項目		質問事項及び要旨	
1. 大規模な市の施設の総合的な整備計画について	<p>1. 第3庁舎建設に関する議論の中で、本庁舎や市民館をはじめとする「大規模な市の施設の総合的な整備計画」を提示するよう求めてきました。</p> <p>一方直近では、萩市民館大ホールが建物調査の結果により6月1日から利用不可となります。また、市民体育館がLED化工事のため6月から専用利用不可、10月26日からアリーナが利用できなくなります。さらには、将来の小中学校の在り方についての検討を開始され、県立高校の統合再編計画の検討も進められており、なおさら総合的な計画が必要です。その際には、県や国等とも協議・調整を図る必要があると考えます。</p> <p>(1) 「大規模な市の施設の総合的な整備計画」について、見解をお尋ねします。</p>		
2. 玉江漁港海岸保全事業について	<p>1. 6月3日に、堀内地区住民に説明会が行われました。玉江漁港海岸保全事業について以下お尋ねします。</p> <p>(1) 開かれた説明会の参加人数、主な意見をお示してください。</p> <p>(2) 地元の受け止めをどのように市は捉えましたか。</p> <p>(3) 地元だけでなく広く市民に説明会を開く予定がありますか。</p> <p>(4) 「玉江漁港」の範囲をお示してください。図面等の資料提出による明確な説明を求めます。</p>		
3. 萩保健医療圏における2次救急医療の拠点病院の持続的な確保について	<p>1. 持続可能な地域医療確保のため取り組んできた2次救急医療の拠点病院の再編について、当初の手法を一旦断念せざるを得なくなりました。他方で、2040年の人口推計等をターゲットとした新たな地域医療構想の策定が迫っています。</p> <p>萩保健医療圏内での2次救急医療の拠点病院の持続的な確保は、医療を受ける側も、医療を提供する側も望んでいます。</p> <p>(1) 早急に具体的な行動が求められますが、まず何をいたしますか。統合以外の代替案が具体的にあるか否かも含め、</p>		

質問項目	質問事項及び要旨
	<p>端的に提示ください。（医誠会が断念を表明された時点についてまでの経緯の説明は求めません）</p> <p>(2) 医師会有志の会の要望書（令和7年9月及び令和8年4月提出）について、提出された皆さまは市の返答を求めています。どのように対応しましたか。</p>
<p>4. 部活動地域移行について</p>	<p>1. 既に活動を開始しているものも含め、9月から①認定地域クラブ活動 ②体験活動 ③サポート活動の3つの活動に既存の学校部活動は移行・展開されます。</p> <p>(1) 3つの活動それぞれに参加する生徒の数及び割合について、現時点の実数と9月以降の見込みをお示してください。</p> <p>(2) 認定された①認定地域クラブの数と活動の種目及び分野をお示してください。 （これまでの経緯、9月以降の体制などの全体論は求めません）</p>

質問順位	11	質問者	小林 富 議員
質問項目	質問事項及び要旨		
1. 物価高騰による市内経済の景況と今後の対策について	<p>1. 市内経済への物価高騰等による影響が深刻であるが萩市としてどのように現状認識に努めて今後の影響をどう考えていますか。</p> <p>2. 萩市が実施する契約等についても状況が日々変化するなかでスライド条項の適用など適切な対応が必要だと考えますが、今後の対応方針をお聞きします。</p> <p>3. これまで物価高騰等の対策としてさまざまな施策が予算化されていますが、DX化による経済対策や市内だけでなく地域全体のDXの活用の必要性が高まっていると考えます。</p> <p>一例では商品券発行事業においては事業執行までの期間や事務コスト（金銭および労務）が発生しており、先進事例を参考としたデジタルでの給付を見据えた整備が不可欠ですが、今後のDX推進に向けた体制、上記の取り組み導入に向けた検討をお聞きします。</p>		
2. 萩市の目指す教育環境と人材育成について	<p>1. 県立高校の再編整備計画・後期実施計画が決定されましたが、萩市からは3項目（①職業学科の確実な継承と産業人材の育成、②複数キャンパス制による教育環境の最大化、③地元への十分な説明と意見聴取）を要望しています。その後の協議などはどうなっていますか。</p> <p>統合方法は萩市だけでなく周辺地域も含めた人材育成に影響を与えますが、萩市はどう取り組みますか。</p> <p>2. 本市が抱える人口減少および少子化対策には経済的支援だけではなく萩市の特色や魅力を活かした施策の展開が必要不可欠と考えます。そのひとつとして地元企業など外部講師と取り組む教育は特色としてだけでなく地域や企業を知る機会となり将来的には就職や地元定着にもつながると考えます。</p> <p>以前にも提案した「味覚の授業」についての進捗、そして、中高生の探求学習や大学とのPBL（課題解決型学習）などさまざまな業種や企業との接点を創出していくことが必要と考えますが萩市の取り組みをお聞きします。</p>		

質問項目	質問事項及び要旨
<p>3. 観光事業における既存施策の検証と新規事業は</p>	<p>1. 萩市が持つ地域資産の保存と活用や交流人口、関係人口の創出にもつなげる観光施策について観光政策課・観光協会、また、他所管において実施されている既存施策の検証をどう進めますか。</p> <p>また、次年度以降にはどのような新規事業を予定していますか。</p>

質問順位	1 2	質問者	山口 泉 議員
質問項目		質問事項及び要旨	
1. 恵美須ヶ鼻造船所跡の整備について	<p>1. 平成27年、「明治日本の産業革命遺産」が世界文化遺産に登録された。</p> <p>萩市は、世界遺産の価値を守り、その歴史や魅力を市民や来訪者に伝えるため、5つの構成資産それぞれについて修復・公開活用計画を策定している。</p> <p>その中で恵美須ヶ鼻造船所跡は、萩藩が西洋技術を取り入れ洋式軍艦の建造に挑戦した、日本の造船近代化の最初期を伝える重要な遺構である。しかし、世界遺産登録から11年が経過した現在でも、現場は防波堤と地下遺構の仕切りがあるだけで、市民や来訪者から「価値が十分に伝わっていない」「現地で説明しにくい」といった声が聞かれる。</p> <p>世界遺産は登録がスタートであり、その価値が市民に共有され、来訪者に理解されて初めて、後世に継承されるものとする。そこで尋ねる。</p> <p>恵美須ヶ鼻造船所跡の公開活用計画では2023年の中期段階までに遺構表示や展望デッキを建設する見学路の整備を想定されている。当初の計画が遅れているが、現在の進捗状況を伺う。</p>		
2. 宿泊客数目標と今後の取り組みについて	<p>1. 萩市は、「第2期萩市総合戦略」で令和6年度年間宿泊客数の目標を47万人としていたが、実績は30万人。目標を大きく下回る結果となった。</p> <p>令和7年9月定例会で、その原因として市内大型ホテルの閉鎖等が挙げられたが、市長は同時に、「宿泊客を増やしていくことが必要である」「観光客が宿泊を伴うことで、滞在時間が延び、飲食、小売、交通、体験型観光など、周辺産業への消費が広がる」と答弁された。</p> <p>ところが、令和7年3月に公開された「第3期萩市総合戦略」では、萩市が目指す宿泊客数の目標値が47万人から35万人へと下方修正されている。</p> <p>現実的な目標設定であるとするが、集客目標を下げた理由と今後の方向性について、市民にも分かりやすく共有していただくことが重要とする。そこで尋ねる。</p> <p>第3期総合戦略において、宿泊客数の目標値を47万人から35万人へ下げた理由を伺う。また、今後どのように宿泊客数の増加を図っていく考えか伺う。</p>		

質問項目	質問事項及び要旨
<p>3. MICE誘致による集客強化について</p>	<p>1. 令和7年度の萩市の観光客数は385万人で前年とほぼ横ばいであったが、宿泊客数は29万人と前年比約4%減少している。コロナ禍後は回復基調にあったものの、その伸びは頭打ちとなっており、新たな観光需要の創出が必要と考える。</p> <p>特に課題となっているのは、平日や閑散期の集客対策である。宿泊施設や飲食店、土産物店など観光関連事業者の経営を安定させるためには、繁忙期だけでなく、年間を通じて一定の来訪者を確保することが重要である。人口減少が進む萩市において、地域経済を支える交流人口を維持・拡大していくことは喫緊の課題であると考えます。</p> <p>ここで、国は観光戦略の一つとしてMICEを推進しており、萩市においても平成29年度からMICE誘致事業に取り組んでいる。しかし、その取り組みの中心は助成制度であり、金銭補助による支援だけでなく、積極的な営業活動や案件の掘り起こしが求められると考えます。そこで尋ねる。</p> <p>(1) 平成29年度から実施しているMICE誘致事業について、助成制度以外の営業活動やターゲット戦略をこれまでどのように展開してきたのか伺う。</p> <p>(2) 萩市への集客強化を図るため、市は、観光協会、宿泊事業者、飲食事業者、商工団体、萩市などで構成する「萩市MICE誘致協議会」を早期に設立し、官民及び地元関係者が連携して迅速な誘致対策を講じる考えはないか。</p>

質問順位	13	質問者	美原喜大議員
質問項目		質問事項及び要旨	
1. 今後の農政の方向性について	<p>1. 今後の法人育成の方向性について聞く。 現状を鑑みると、農政の方向性の転換期に来ていると言えます。今を守るための施策へ、方向性を変える時期と思われませんが、如何にお考えですか。</p> <p>2. 農業法人の今後の継続については、どのような施策・対応が必要とお考えでしょうか。(区画の拡大・GPS付き機械の大型化・スマート農業の取入れ等)</p> <p>3. 草刈り作業の軽減化が必要です。農地管理省力化推進事業が普及しつつあり、軽減化されつつありますが、物価高騰に対して基準補助の単価が追い付いてきていません。基準単価の改定が必要と思われまます。その他、草刈り作業の軽減化に対し、考えておられることはないですか。</p>		
2. 市道・市営住宅について	<p>1. 市道の管理について(年に一度は通行可能か全線確認を)</p> <p>2. おそ吹原の住宅(公特賃住宅)、補助金適化法の期限も切れている。また、古くもなっている。家賃の変更(減額)をできないか。</p>		
3. 議員要望の取扱いについて	<p>1. 議員からの要望は、必ず市長まで報告を挙げる事となっていると聞く。そうなっていますか。徹底されていますか。</p>		
4. 訴訟行為委任事業についての現状を聞く	<p>1. 令和7年4月臨時議会で、予算可決された訴訟行為委任事業について市民の関心度も高いので、次により現状を聞きます。</p> <p>(1) 現在、裁判中と聞きますが、裁判は傍聴が出来ることとなっています。よって、これまでの状況を説明できることとなるはずですが、第1回公判から現在までの状況をそれぞれ報告してください。公な立場として、言えないようなことではないと思いますが。</p> <p>(2) 令和7年度予算の執行は繰越予算となっているようですが、着手金(55万円)として支払った弁護士費用は、市が勝訴した場合に、どうなりますか。</p> <p>(3) 時間がかかっているようですが、何が原因ですか。判決はいつ頃になりますか。</p>		

質問順位	14	質問者	松浦 誠 議員
質問項目		質問事項及び要旨	
1. 「地域インフラ群再生戦略マネジメント（群マネ）」の導入・推進について		1. インフラ老朽化と技術系職員不足の現状認識について 2. 市の「群マネ」導入への見解について	
2. 漁港におけるマネー向上と安全確保について		1. 現状の把握と認識について 2. これまでの取り組みと今後の対策について	

質問順位	15	質問者	安井順子 議員
質問項目		質問事項及び要旨	
1. 萩医療圏の今後の二次救急医療体制について		1. 萩市全体で課題に向き合う体制の強化 2. 市民と医療現場が希望を持てる「具体的なロードマップ」を	

質問順位	16	質問者	森田哲弘 議員
質問項目		質問事項及び要旨	
1. 会派に対する評価・報道の在り方について	<p>1. 議会内の各会派の姿勢や評価について、執行部としてどのように認識しているのかお尋ねします。</p> <p>2. 議案に対する賛否の判断が、特定の政治的ラベリングとして報道・周知されることについて、市としてどのように受け止めているのかお尋ねします。</p>		
2. 議案審議における説明責任と市政の透明性について	<p>1. 大型事業や市民生活に影響の大きい事業について合意形成や説明責任をどの様に果たしているのかお尋ねします。</p> <p>2. 議会からの質疑や指摘に対し、より丁寧な情報提供や説明責任をどの様に果たしているのかお尋ねします。</p>		
3. 今後の議会運営と市政の基本姿勢について	<p>1. 市長として、議会との関係性をどのように構築し、市政運営を進めていくのかお尋ねします。</p> <p>2. 多様な意見を踏まえた合意形成を今後どのように強化していくのかお尋ねします。</p>		
4. 市民病院と都志見病院との中核病院形成計画中止に対する萩市の今後の対応について	<p>1. 4月28日の都志見病院側による2病院統合中止を受けて先の3月定例会における「中核病院調査特別委員会の委員長報告と少数意見の留保」に対する市長の見解と今後の市の対応についてお尋ねします。</p> <p>2. 4月28日の市長に対して都志見病院側から「市民病院と都志見病院との統合による中核病院形成に関しては、現都志見病院の経営改善を先行させる必要があるためお断りすることを決断した」旨の説明に加え「萩市との連携した中核病院の必要性は、痛感している」との説明であった。この説明における今後の萩市の対応と責務について市長の見解を求めます。</p> <p>3. 中核病院中止を受けて萩市の2次救急医療、特に萩市中心部以外、遠距離の須佐・田万川地域や島しょ部について今後の対応をお尋ねします。</p>		